

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600018		
法人名	特定非営利活動法人にしいや		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	徳島県三好市西祖谷山村西岡向110-1		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、豊かな事前環境に恵まれたところに位置している。寒さが厳しい冬期以外は、散歩を楽しんだり、四季折々の自然に触れたりして季節を感じている。また、畑で旬の野菜を栽培し、働く喜びや生育の楽しみ、収穫の喜び、美味しくいただくありがたさを感じている。定期的に歯科の往診があり、治療や口腔ケアの支援を行っている。月1回、理学療法士の指導を得て、個別のリハビリテーションを行っている。利用者が、心身ともに健康で自分らしく穏やかに生活することができるよう一人ひとりの能力に応じた生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、豊かな自然環境に恵まれた場所に位置している。利用者は、季節の移り変わりを肌で感じつつ、畑で旬の野菜を栽培したり、地域の方々や職員と支えあったりして、穏やかに過ごしている。事業所の運営方針の一つとして地域支援事業に取り組んでおり、地域の高齢者の見回り・見守り活動を行っている。地域住民による、話し相手や踊り、歌のボランティアの来訪が多く、地域住民の憩いの場となっている。地域と事業所が一体となって利用者の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「家庭的な環境のなかで、自分らしく穏やかな生活を支援します。を掲げている。リーダー会議やモニタリング等を利用し、日常生活での問題や要望等を検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念“家庭的な環境の中で、自分らしく穏やかな生活を支援します”を掲げている。日ごろから、職員は理念を共有して、利用者の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の畑で野菜作りを行っており、近隣の方から指導を受けて利、手伝いに来て頂いている。利用者と、来訪者の方が一緒に休憩をとり、和やかに会話を楽しんでいる。ゲートボール場が近隣にあり、地域の方々の来訪が度々である。	利用者の知人が来訪してくれたり、地域住民が野菜づくりの指導に来てくれたりしている。また、近隣の住民が新鮮な野菜等を差し入れてくれることもある。利用者が地域と繋がりがりつつ暮らすことができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護タクシーも運営しており、通院や生活支援の移動手段として活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、対象期間内のサービス内容や関係行事、職員研修会の参加状況等について、説明や状況報告を行い、それぞれの立場や異なる角度からの意見を頂き改善や取り組みの必要性の高いものから順次対応しており、サービス向上に大変役立っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、活発な意見交換を行っている。事業所の状況報告や話し合いのなかで出された意見や改善点については、必要性の高いものから順次対応し、日ごろのサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で情報交換を行っている。	市担当職員とは、電話等で密に連絡を取りあって良好な関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。	管理者が中心となって、身体拘束に関する職場内研修を行っている。鍵をかけることなく、利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。また、全職員で身体拘束の廃止に関するマニュアルを確認して理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、高齢者虐待防止の基本等、介護従事者等による虐待への対応について、施設内回覧研修により、虐待行為が行なわれないよう、見過ごさない職場づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入所利用者には、左記事業の必要な方 はおいでませんが、制度周知については職 場内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書等により充 分にならないよう説明を行い家族及び本人に納 得を頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者の意見が反映されやすい環境・雰囲気 づくりを心掛け、管理者・介護職員が日常生活の 場面場面で意見や不満、苦情の有無についてさ りげなく聴取するなどの工夫を行い、頂いたご意 見等についてはミーティング等で協議検討を行っ ている。	職員は、利用者や家族が意見や要望を表出しや すいような雰囲気づくりに留意している。年1回、家 族会を開催して様々な意見を出してもらっている。 出された意見や要望は、ミーティング等の機会に 協議し運営面へ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議及びモニタリング会議に 於いて、意見や提言の機会を設けている。	リーダー会議や職場内研修、モニタリング会 議、各種ミーティング等の機会において、職員 の意見を聞く機会を設けている。日ごろから、 管理者は、職員とコミュニケーションをとよう 努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員確保に努め、職員の希望にできるだけ 添えられる体制づくりを行い、向上に繋がる よう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	新任従事者や中堅従事者、指導的従事者 毎に職場外研修、職場内研修で、知識、経 験を發揮できるよう、「事業は人なり」を基本 に研修参加が行なえるよう計画		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている	現在は、同業者との交流は無いが、地域 の医療、福祉の情報交換会、地域ケア会議 が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族のご要望等をお聞きしセンター方式で、利用者のご理解を深められる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面会時より家族の思いや今後の希望、利用者に対する思い等を時間をかけてしっかりと聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じた、フォーマル及びインフォーマルサービス等の説明をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で、常に利用者が主役の生活を心がけ、さりげない支援により楽しい共同生活を維持できますよう本人の目線にたった支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に住居者を支えて頂く継続的な関係づくりを心がけ、毎月のお手紙の中でも一方通行の報告に留まらず、利用者の生活歴等からヒントやアドバイスを求め共に支えて頂く関係づくりを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具、家族写真の持ち込みやじゅうらいからの知り合いの面会について、ご協力をお願いしている。	利用者の家の近くまで出かけたり、近所の人と話す機会を設けたりしている。また、来訪者に“もみじ工房”でつくった籠やわら草履、お手玉等をプレゼントするなどして、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常会話や家事分担についても孤立されないように、さりげないチーム編成を心がけ、また食卓の席替え等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを望まれる利用者やご家族とは、連絡をとりながら継続した関係を保っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、利用者の過去の生活歴をも含めた暮らしぶりやこれからの本人、家族の意向についても十分事前調査を行い本人の意向把握に努めている。	日ごろの利用者の言葉や表情等から思いや意向を察知するよう取り組んでいる。また、興味のある事柄を探するなどして、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を頂きながら本人の生活史や馴染みの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のD-4用紙の活用により日常生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、本人と家族の意向を聞き取り、前職員の気づきを取り入れ、計画に反映している。	本人や家族の意向、職員の気づきを介護計画書に取り入れている。身体状況の変化を把握し、介護計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D-4用紙の活用及び申し送りにて日々の介護に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの生活の中で自分らしく、穏やかに過ごして頂けるよう、自分の出来ることを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もみじ工房での作品づくりと地域資源である観光地の物産館での作品販売収益事業を行い地域資源を生かした生甲斐づくりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけの医療機関への受信支援を個別に対応しており、適切な医療受診を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、職員が受診につきそった場合には、家族へ報告を行って情報の共有化を図っている。月2回程度、定期的な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の医師の指導支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては定期的に状況把握に病院に出向き、情報交換と、退院時、退院後の支援についても病院関係者や家族との連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になられた場合、医療機関、家族との連絡を密にし、本人の意向に添えるように支援しているが、医療行為が出来ない旨を家族に理解して頂き、医師の指示に従うようにしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意向を踏まえた支援に努めている。家族や医師、職員間で話しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修によりマニュアルにより知識を得ているが、地域の医療機関に指示頂くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で、避難の手順をもとに行っている。地域との協力については、高齢者地域のため頼りにされている。	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得たうえで避難訓練を実施しており、利用者の参加もある。避難経路に手すりを設置している。風雨災害時、地域住民等が避難してくることがあり、地域のなかの避難場所としての社会的役割を発揮しているが、食料や飲料水等を備蓄するまでには至っていない。	事業所は、地域住民の避難場所となった実績があるなど、地域のなかの一事業所として社会的責務の発揮に努めている。今後は、食料や飲料水等の備蓄品の確保に努め、さらに質の高い災害対策に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	1ユニット		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に本人や家族の視点にたって、適切な呼び方に心がけている。居室に入る時は声を掛け承諾をもらって入室するように心掛けている。日々の記録簿は人前に置かないよう配慮している。また、個人情報の書類については鍵つきロッカーに保管している。	職員は、利用者の人格や誇りを大切に捉え、つねに本人本位の支援を心がけている。居室に入るときには声かけを行い、承諾を得てから入室するようにしている。利用者一人ひとりのプライバシーを損なうことがないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆとりを持って利用者のスピードに合わせて、ゆっくり優しく説明し、自己決定の支援を徹底していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはだいたい決まっていますので、お一人、お一人のペースで生活して頂けるよう心がけている。また、馴染みの生活が楽しめるよう、ゲーム、体操、散歩、趣味等を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見だしやおしゃれに関心のある利用者には洋服のコーディネートや助言や称賛の言葉をかけて喜んでいただき、対応可能な希望の理髪店への送迎支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に採り入れ季節感を楽しんでいます。食べたいメニューがあれば献立を変更して要望に応えるようにしている。調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、食後の食器洗い、食器の片づけ等職員と一緒にしている。	旬の食材を献立にとり入れたり、利用者の要望に応えたりして、季節感を味わうことのできる工夫を行っている。天気の良い日には、庭先で弁当を食べてピクニック気分を味わったり、利用者とともに季節の行事食や干し柿、干し大根、梅干しなどの保存食を作ったりしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで楽しく食事をとっている。利用者は、能力に応じて片づけなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量の確認、助言により健康管理の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の口腔ケア支援のもと個々のケア支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内での排泄を基本に排尿、排便チェック表でパターンを把握し、声掛けし誘導等による気持ちの良い排泄支援を心がけている。	排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの自立した排泄の実現に向け、職員は声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の散歩、体操による運動、食事の工夫、の支援を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数、時間、順番は利用者の意向により決まりました。時には、利用者の都合、体調により変更することがありますが、その都度、希望を取り入れ入浴が楽しめるよう心がけている。	利用者の意向に応じて、入浴の回数や時間、順番を決めている。利用者の体調や希望のよって、そのつど変更し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センター方式の利用により利用者御1人々の理解を深め、状況を把握し、その時々においてさりげない支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による効能、副作用について、医師、薬剤師から把握し、体調変化を観察し医師の指導の下服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意思を尊重し、無理のないように気を付けながら、日常生活上のお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは天候の良い日には散歩に出かけ季節折々の四季を楽しんでいる。外出は希望にそってショッピング。外食を兼ねて四季を感じて頂けるよう支援をしている。	天候の良い日には、戸外へ散歩や買い物に出かけている。また、外食やドライブでの遠出も楽しみのひとつとなっている。本人の希望により、美容院へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者には本人に持っ ていただいているが、お金の自己管理が 出来ない利用者に対しては、家族の要望 により担当職員が管理をし、必要に 応じて自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように 支援をしている	利用者の要望により電話の使用、手紙 のやり取りを自由にできるよう配慮し ている。また、利用者の依頼により職 員が手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)が、利用者 にとって不快や混乱をまねくような 刺激(音、光、色、広さ、温度など) がないように配慮し、生活感や季節 感を採り入れて、居心地よく過ご せるような工夫をしている	生け花を飾ったり、カレンダーを掛 けるなど家庭に居ると変わらないよ う工夫をしている。	共用空間に季節の花等を飾っている。 食器を洗う音や調理の音などを感じ ることができ、生活感あふれる空間 となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居 場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	リビング、廊下、ベランダ、庭にベン チを設置され、思い思いの場所で自 由に過ごされるよう配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	出来る限り家庭の環境と変わらないよ う、長年使っていた馴染みの家具、 家電用品等を持って来ていただい ています。	利用者一人ひとりの馴染みの家具等 を持ち込んでもらっている。壁面 には、利用者や家族の写真を飾り 、家庭的な雰囲気づくりに留意し ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な 環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安 全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	センター方式を活用し、理学療法 士の助言をもとに、御1人々の心 身両面を理解して出来ることを 楽しんで頂けるよう工夫をして いる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「家庭的な雰囲気の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議、モニタリング等で職員と明確な理念に添った支援を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設施設内の畑では、作物づくりをとおして近所の方にも指導やお手伝いを頂いたり、相互に野菜のおすそ分けをする等の交流が日常的にはかかれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区住民福祉協議会による地域支援事業「在宅高齢者見守り事業」等への協力をして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に「1回定期に開催し、対象期間内のサービス内容や関係行事、職員研修会の参加状況について説明や状況報告を行い、それぞれの立場や異なる角度からの意見を頂き改善や取り組みの必要性の高いものから順次対応しており、サービス向上に大変役に立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	総合支所を訪れ、不定期ではあるが情報交換を行うよう心掛けている。また、職員は地域の行事等参加協力し、その都度情報交換をおこなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、高齢者虐待防止の基本、要介護施設従事者による虐待への対応等については、施設内資料回覧研修を行い、虐待行為がなされないよう職員相互にこれを見過ごさない職場づくりに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では左記事業の必要な利用者差はおいでませんが、制度周囲については職場内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書等により十分に内容説明を行い、家族に納得を頂いたうえで契約終結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催やご意見箱の設置等、来訪時には苦情について気安く申し出られるように取り組みんでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、モニタリング会議に於いて、意見や提言の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟な体制をカバーする為の職員確保に努めると共に勤務調整や変更協力について、職員には事前に了承を頂き対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任従事者や中堅従事者、指導的従事者毎に職場外研修と職場内研修を行なえるよう職員配置を検討しながら参加できるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同業者との交流はないが、地域の医療、福祉、保険が定期的に集い意見、情報交換会、が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族のご要望をお聞きし、センター方式を活用し、利用者のご理解を深められるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面会より家族の思いや今後の希望、利用者に対する思い等を時間をかけて、しっかりとお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思いやご希望等、お考えをお聞きし満足いただける支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な環境の中で、常に利用者が主役の生活を心がけ、さりげない支援により楽しい共同生活を維持できますよう本人の目線に立った支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に住んで入居者を支えて頂く継続的な関係づくりを心がけ、毎月のお手紙の中でも一方通行の報告に留まらず、利用者の生活歴等からヒントやアドバイスを求め共に支えて頂く関係づくりを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具、家族写真の持ち込みやじゅうらいからの知り合いの面会について、ご協力をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常会話や家事分担についても孤立されないように、さりげないチーム編成を心がけ、また食卓の席替え等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と一緒に住んで入居者を支えて頂く継続的な関係づくりを心がけ、毎月のお手紙の中でも一方通行の報告に留まらず、利用者の生活歴等からヒントやアドバイスを求め共に支えて頂く関係づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を頂きながら本人の生活史や馴染みの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を頂きながら本人の生活史や馴染みの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のD-4用紙の活用により日常生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、本人と家族の意向を聞き取り、前職員の気づきを取り入れ、計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D-4用紙の活用及び申し送りにて日々の介護に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの生活の中で自分らしく、穏やかに過ごして頂けるよう、自分の出来ることを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もみじ工房での作品づくりと地域資源である観光地の物産館での作品販売収益事業を行い地域資源を生かした生甲斐づくりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけの医療機関への受信支援を個別に対応しており、適切な医療受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の医師の指導支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては定期的に状況把握に病院に出向き、情報交換と、退院時、退院後の支援についても病院関係者や家族との連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になられた場合、医療機関、家族との連絡を密にし、本人の意向に添えるように支援しているが、医療行為が出来ない旨を家族に理解をして頂き、医師の指示に従うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修によりマニュアルにより知識を得ているが、地域の医療機関に指示頂くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で、避難の手順をもとに行っている。地域との協力については、高齢者地域のため頼りにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に本人や家族の視点にたつて、適切な呼び方に心がけている。居室に入る時は声を掛け承諾をもらって入室するように心掛けている。日々の記録簿は人前に置かないよう配慮している。また、個人情報の書類については鍵つきロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆとりを持って利用者のスピードに合わせて、ゆっくり優しく説明し、自己決定の支援を徹底していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはだいたい決まっていますので、お一人、お一人のペースで生活して頂けるよう心がけている。また、馴染みの生活が楽しめるよう、ゲーム、体操、散歩、趣味等を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見だしやおしゃれに関心のある利用者には洋服のコーディネートや称賛の言葉をかけて喜んでいただき、対応可能な希望の理髪店への送迎支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に採り入れ季節感を楽しんでいます。食べたいメニューがあれば献立を変更して要望に応えるようにしている。調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、食後の食器洗い、食器の片づけ等職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量の確認、助言により健康管理の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の口腔ケア支援のもと個々のケア支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内での排泄を基本に排尿、排便チェック表でパターンを把握し、声掛けし誘導等による気持ちの良い排泄支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の散歩、体操による運動、食事の工夫、の支援を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数、時間、順番は利用者の意向により決まりました。時には、利用者の都合、体調により変更することがありますが、その都度、希望を取り入れ入浴が楽しめるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センター方式の利用により利用者御1人々の理解を深め、状況を把握し、その時々においてさりげない支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による効能、副作用について、医師、薬剤師から把握し、体調変化を観察し医師の指導の下服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意思を尊重し、無理のないように気を付けながら、日常生活上のお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは天候の良い日には散歩に出かけ季節折々の四季を楽しんでいる。外出は希望にそってショッピング。外食を兼ねて四季を感じて頂けるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者には本人に持っ ていただいているが、お金の自己管理が 出来ない利用者に対しては、家族の要望に より担当職員が管理をし必要に応じて自由 に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により電話の使用、手紙の やり取りを自由に出来るように配慮してい る。利用者の依頼により職員が手紙の代行 も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がない ように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関と玄関前にはベンチ、リビングにはソ ファーとテーブル、畳の間には掘りごたつ、 廊下には長椅子を設置し利用者が思い思い の場所でのんびり過ごせるよう工夫をしてい る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	廊下、リビング等気の合った方としゃべりを されて過ごされたり、居室で一人のんびり ゆったり過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	利用者と家族が相談をして、使い慣れた物 を持ち込んで頂き、安らぎがあり、落ち付き のある部屋になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	トイレ、お風呂の入り口には張り紙をし、居 室入り口には名札を付けたり飾りをしてい る。		